

山地災害復旧事業現地検討会を実施してみても

関東森林管理局 東京事務所 板倉寿美次
治山課 丸山寿隆



現地検討会の開催

現地検討会の目的

- 山地災害時における被害情報の把握と情報収集能力の習得及び向上
⇒アプリ操作、機能の習得及び災害発生時を想定した復旧計画の検討
- 治山現場を通じて知見を高め、幅広い治山技術の実務を遂行できる技術者の育成
⇒多様な治山現場視察を通じた、現地に即した治山施設計画の検討

第1回現地検討会の状況（R5.5.22～R5.5.25）

場所：新潟県村上市、関川村 参加者：26名



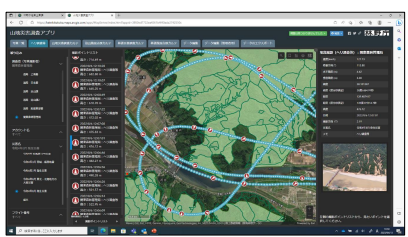
第2回現地検討会の状況（R5.8.29～R5.8.31）

場所：静岡県小山町 参加者：21名



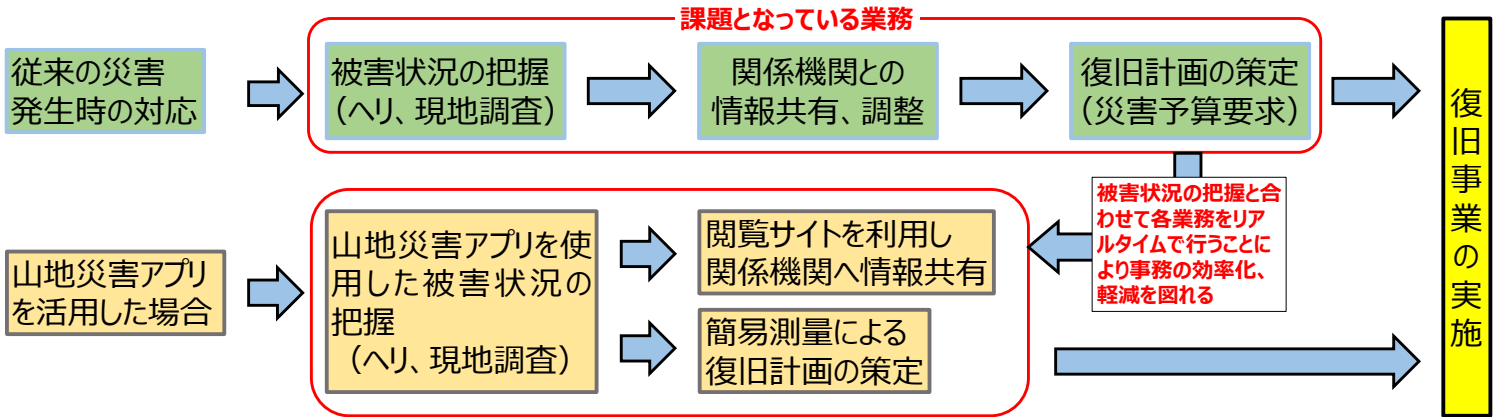
山地災害調査アプリとは

- スマートフォン等の端末のアプリでの被害調査結果を閲覧サイトでリアルタイムに共有
- 現地写真や位置情報、調査ルートやヘリ調査の軌跡など、幅広い情報を共有
- 位置情報を活用した簡易測量も可能



山地災害発生時の対応

近年、台風等の豪雨や大地震等により、全国的に激甚災害が多発、災害発生リスクが高まっている。従来は、厳しい地理的条件や治山技術者不足などの影響で、被害状況の把握や情報共有の遅れが課題となっていた。今年度開催した検討会にて習熟を深めた「山地災害アプリ」を活用することにより、被害状況の把握と同時に関係機関との情報共有や復旧計画や施設設備の検討ができることになり、災害復旧事業をより迅速に着手することが可能となった。



アプリ活用事例

令和5年度に発生した各災害にてアプリを活用した状況把握等を行っています。



台風第13号による被害箇所での被害状況調査及び簡易測量を行い、復旧計画策定の迅速化を図った。



能登半島地震による被害状況の把握を行うため、新潟県と共同のヘリ調査を実施した。閲覧サイトを通じ、林野庁、新潟県に迅速な情報共有を行った。

課題と今後の取り組み

- ・業務の効率化のためのICT技術の活用や開発、機器等の環境整備の促進
- ・多様な機能を有する「山地災害調査アプリ」の有効活用のため継続的な検討会の開催
- ・災害発生時の迅速な対応に向けた、治山技術の研鑽（復旧計画に向けた測量や製図の実習など）
- ・ベテラン職員から若手職員への治山技術の伝承
- ・民有林支援や地域連携を兼ねた都県、市町村の治山・林務担当者を交えた検討会の開催